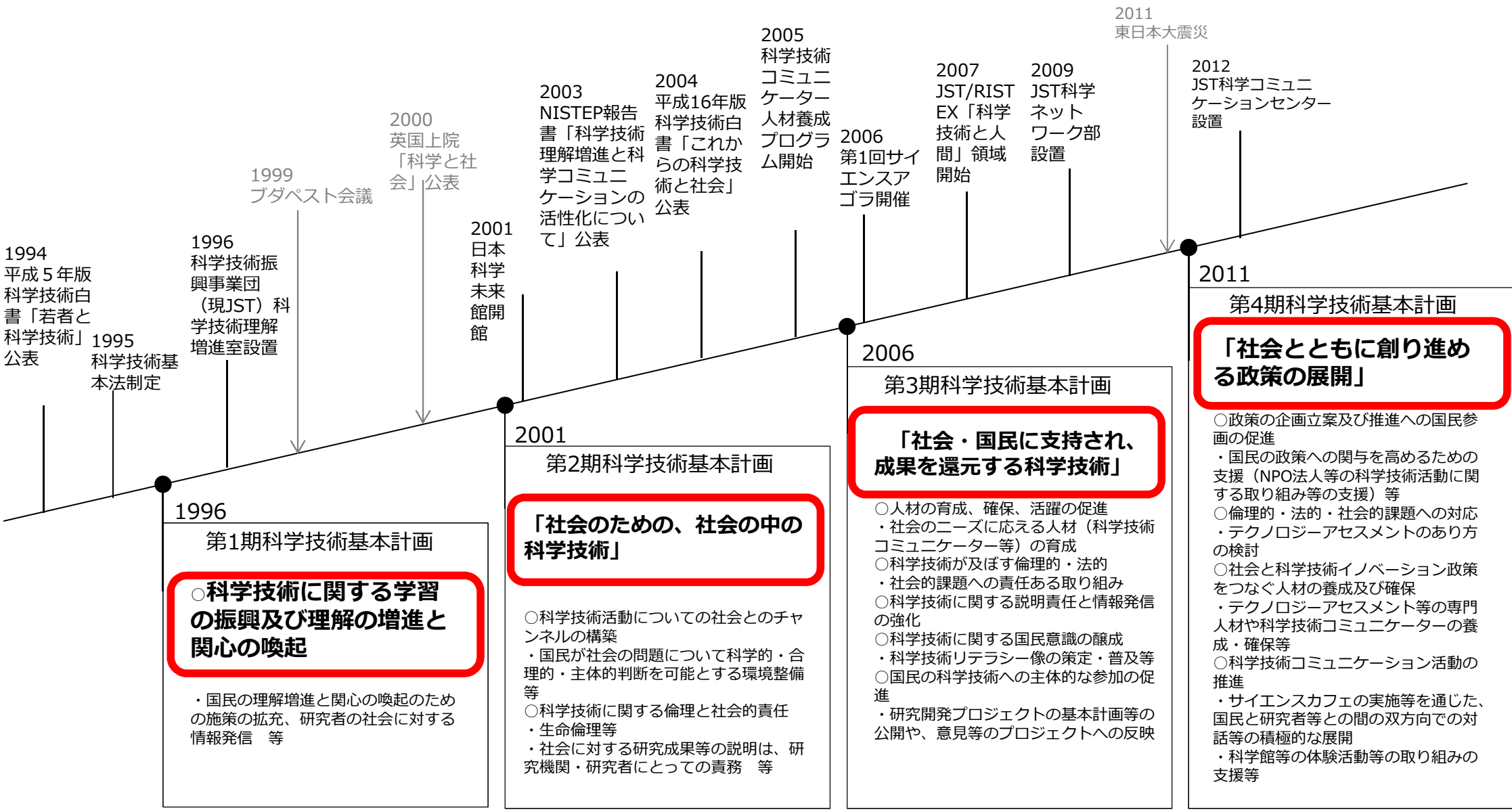


# 科学技術基本計画の変遷



1996  
第1期科学技術基本計画

**○科学技術に関する学習の振興及び理解の増進と関心の喚起**

- ・国民の理解増進と関心の喚起のための施策の拡充、研究者の社会に対する情報発信 等

2001  
第2期科学技術基本計画

**「社会のための、社会の中の科学技術」**

- 科学技術活動についての社会とのチャネルの構築
  - ・国民が社会の問題について科学的・合理的・主体的判断を可能とする環境整備等
- 科学技術に関する倫理と社会的責任
  - ・生命倫理等
  - ・社会に対する研究成果等の説明は、研究機関・研究者にとっての責務 等

2006  
第3期科学技術基本計画

**「社会・国民に支持され、成果を還元する科学技術」**

- 人材の育成、確保、活躍の促進
  - ・社会のニーズに応える人材（科学技術コミュニケーター等）の育成
- 科学技術が及ぼす倫理的・法的・社会的課題への責任ある取り組み
- 科学技術に関する説明責任と情報発信の強化
- 科学技術に関する国民意識の醸成
  - ・科学技術リテラシー像の策定・普及等
- 国民の科学技術への主体的な参加の促進
  - ・研究開発プロジェクトの基本計画等の公開や、意見等のプロジェクトへの反映

2011  
第4期科学技術基本計画

**「社会とともに創り進める政策の展開」**

- 政策の企画立案及び推進への国民参画の促進
  - ・国民の政策への関与を高めるための支援（NPO法人等の科学技術活動に関する取り組み等の支援）等
- 倫理的・法的・社会的課題への対応
  - ・テクノロジーアセスメントのあり方の検討
- 社会と科学技術イノベーション政策をつなぐ人材の養成及び確保
  - ・テクノロジーアセスメント等の専門人材や科学技術コミュニケーターの養成・確保等
- 科学技術コミュニケーション活動の推進
  - ・サイエンスカフェの実施等を通じた、国民と研究者等との間の双方向での対話等の積極的な展開
  - ・科学館等の体験活動等の取り組みの支援等

# 科学技術イノベーションと社会との関係強化

## ～ポスト第4期科学技術基本計画に向けて～

### 基本認識

- ✓ 科学技術イノベーション政策を今後とも強力に進め、社会の変革を牽引していくためには、社会からの理解・信頼・支持を獲得することが大前提。
- ✓ 第2期基本計画から科学技術と社会との関係は重要視され、様々な取組を実施してきたが、社会の変化が激しい中で、その取組は必ずしも十分ではなく、また、東日本大震災や研究不正の発生等で科学技術や研究者等に対する社会の信頼は失われつつある。
- ✓ このため、「社会からの信頼回復」の視点を重視し、科学技術や研究者等と社会との信頼関係を再構築していくことが必要。
- ✓ また、社会にとって有用な科学技術イノベーションの実現には、社会と科学技術が共創していくことが不可欠との観点から、科学技術イノベーションに携わる者全体が、「責任ある研究・イノベーション(RRI: Responsible Research and Innovation)」に向けて、社会との対話や協働に取組むとともに、研究者等の社会リテラシーを向上を促していくことが重要。

### 取組の方向性

- 研究活動における不正行為、研究費の不正使用に関し、ガイドラインを作成・改訂するとともに、大学・公的研究機関等が機関を挙げてこの問題に取り組むことを徹底
- 科学技術には限界や不確実性があり想定外の事象が起こりうることなど、科学技術のリスクに関する社会との対話(リスクコミュニケーション)の促進
- 課題設定から解決まで国民、政策担当者、研究者等が参画・協働する場の設定など、多様なステークホルダーの科学技術イノベーション政策と科学技術活動への参画促進
- 科学技術の進歩を有効に活用した社会システムの構築等について、人文学、社会科学、自然科学の協働による研究開発の推進